



かわしま

mail:y3kawash@edu.city.yokohama.jp

http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kawashima/

学校だより2月号
平成24年2月1日
横浜市立川島小学校
校長 小池 慎一
TEL 371-0757
FAX 381-7248

ふるさと川島

副校長 今野 敏晴

今年、例年になく寒い冬のようです。1月14日には、横浜で10年ぶりとなる大雪が降りました。子ども達にとっては、自宅近くや学校で十分に雪遊びができ、楽しかったことと思います。学援隊の皆様を始め、地域や保護者のたくさんの方々が、子どもたちの登下校の安全のために道路に出て通学路や学校坂の雪かきをしてくださいました。けがなく登下校することができました。心より感謝申し上げます。

先月は、雪かきだけでなく、たくさんの方々に協力いただいた月でした。1月24日には、1年生が地域のボランティアや保護者の方に昔遊びを教えていただきました。けん玉、こま、おはじき、お手玉のやり方をていねいに教えていただき楽しく活動することができました。24日・25日は、6年生が陶芸を教えていただきました。自分らしい作品を作るべく、ろくろを回しながら真剣に打ち込んでいました。25日は、5年生が、ほどがや元氣村の方からわら細工を教えていただきました。何度も来校しわら細工指導の準備をしていただきました。当日は、体育館でくぬぎ台小学校の5年生といっしょにわらで亀を作りました。わらを編んだり、わらを束ねて亀の形をつくらしたりする活動に悪戦苦闘していましたが、2時間余り飽きずに制作し、わらが亀の形となり、どの子も満足した表情を浮かべていました。また、25日は、3年生が、川島のまちにでかけ、地域の方にまちの昔を案内してもらいました。松月庵や妻恋稲荷、杉山神社等をまわりました。川島学舎発祥の地である隋流院にも立ち寄り、本堂で座禅をしました。畳に座ったこともない子もいて、貴重な体験となりました。川島のまちに対する関心も高まったことと思います。読み聞かせや家庭科のボランティアも引き続き入っていただいております。ご指導いただいたたくさんの方々に感謝申し上げます。そして、このような地域の教育力を活かす活動を今後も大切にしたいと考えています。

子どもの頃は、だれしも地域（学校を含めて）を繭にして育ちます。何年かし、羽ばたいていくまでは、この川島の地域の中で育つのです。また、繭である地域を「郷土」や「ふるさと」とか「故郷」という呼び方をします。「ふるさと」という言葉は、懐かしい響きを感じます。「ふるさと」という言葉を聞くと、歌にもあるように自分の生まれ育った野山の様子や地域行事、遊んだ友達のことなどが懐かしく思い出されます。川島小の子ども達は、地域の方に温かく見守られ、ご指導いただいたこともきっと思い出すことでしょう。困難にぶつかったり、傷ついたり、大きな悩みがあったりすると「ふるさと」を思い出す人が多いそうです。

私たちは、郷土出身の有名人を誇りに思ったり、甲子園で活躍する郷土の高校を必死で応援したりします。自分が生まれ育った郷土への思いは、私たちが生きていく上で、折にふれて心の支えになっています。子ども達一人ひとりにとってすばらしい「郷土」にするために、地域をよく知り、地域の方々と親しくし、地域の行事にも進んで参加してほしいと考えております。

子ども達の健やかな発達を願い、豊かな人間性を育てるために、子ども達一人ひとりの心の中に、心の財産である「故郷」をもたせてやりたい、そのためには、地域・学校・家庭それぞれが、「みんなで工夫しながら」「人任せに終わらせることなく」できることから地域とのつながりを図っていくことが大切です。地域・学校・家庭が協力して、「故郷づくり」のためのよい思い出と健やかな発達を促す環境づくりに努めてまいりたいと思いますので、ご理解、ご協力をお願い申し上げます。